

# 博物館だより



No.99

平成26年7月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666

## 第19回

# 小学生歴史たんけん 作文コンクール作品募集!

楽しみがいっぱいの夏休み。小学生の皆さんは何をして遊びますか?水泳・キャンプに旅行やスポーツなどなど...考えるワクワクしますね。

でもせっつかくの長い夏休み、遊んでばかりじゃもったいないですよ。自分たちの住んでいる町や地域の歴史を調べたり、おじいちゃん・おばあちゃんから昔の話を聞いたりして、夏休みだからこそできる「歴史たんけん」にチャレンジしてみませんか?

**みなさんが調べた歴史のことを作文にまとめてください。**

◎小学5・6年生なら誰でも応募できます。

◎自分たちの住む町や地域の歴史、おじいちゃん・おばあちゃんに聞いた昔の話、歴史の本を読んだ感想、旅行先で調べた歴史など「歴史」に関することなら内容は何でもOK!  
◎作文は400字詰め原稿用紙3枚から5枚程度にまとめてください。

### 応募作品の送付方法

左記の送り先へ個人または学校単位で作品を郵送または持参してください。作品には必ず、住所・氏名・電話番号・学校名・学年をはっきり書いてください。

文の「みやこ町歴史民俗博物館」



### ♪送り先

〒824-0121

京都府みやこ町豊津1122-13

みやこ町歴史民俗博物館内

作文コンクール担当宛

### ♪締切日

平成26年9月19日(金) 必着

### ♪結果発表

平成26年10月上旬。最優秀賞・

優秀賞には賞状・賞品(図書カード等)を、応募者全員には記念品をさしあげます。

### ♪表彰

受賞者は、10月18日(土)に、みやこ町中央公民館(みやこ町役場犀川支所となり)で開催される、歴史文化カレッジ特別講演会(古墳まつり)で表彰します。

### お知らせ

この作文コンクールと共に「絵画コンクール」も実施します。詳しい内容は次号でお知らせします。

## 不動IX

第9回向井澄男写真展

当館では、7月23日(水)から8月24日(日)まで、故・向井澄男さんの写真展を開催します。

向井澄男さんは、永年にわたり京築地方の祭りや風物を撮り続けた写真家です。平成15年に74歳で亡くなられましたが、平成18年にご遺族より数万点におよぶ遺作が当館に寄贈されました。以後、毎年1回「不動」の共通タイトルで、向井さんの写真展を開催しています。9回目となる今回のテーマは「四季のまつり」。ぜひご来館ください。

●会期 7月23日(水) ~ 8月24日(日)

●場所 当館展示室

●観覧料 常設展の観覧料でご覧いただけます。

大人 200円(税込)  
高校生以下 100円(税込)



▲菅原神社「九日祭(くんちまつり)」の餅配り(みやこ町節丸) 平成3年撮影

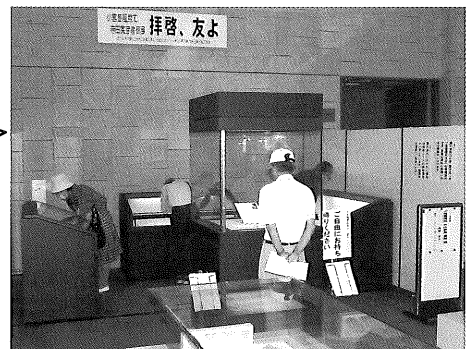
## 5・6月の業務日誌から

5月30日(金)~6月1日(日)、ミニ企画展「拜啓、友よ-小宮豊隆宛て寺田寅彦書簡展」が開かれました。本年寄贈された貴重な資料の速報展で3日間の限定企画でしたが、町内外から多くの観覧者がみえました

6月8日(日)、豊前国府跡公園で第3回豊前国府まつりが開催されました。会場内はステージ発表やモノづくり体験、国作区や博物館友の会の出店で大いににぎわいました



▲まつり会場でのモノづくり体験「パルーンアート」



▲貴重な書簡を食い入るように見つめる来館者

みやこの歴史発見伝 76

国登録文化財

仲哀隧道

再録版

所在地 京都府みやこ町勝山松田

田川郡香春町鏡山

完成年 明治二十三年(一八九〇)

規模・構造等 全長約四三三m、高さ約五・〇m、幅約六・五m、レンガ・切石積み

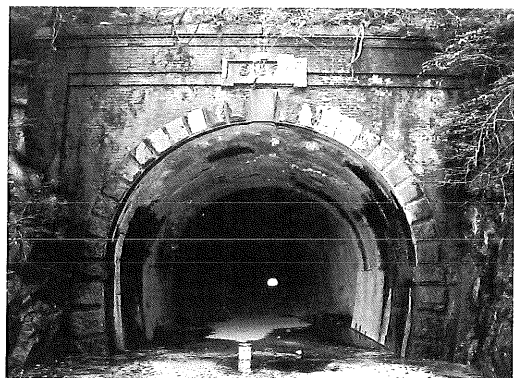
国登録文化財・仲哀隧道

仲哀隧道は、現京都府みやこ町と田川郡香春町を結ぶ全長約四三二mのトンネルです。明治十七年(一八八四)二月、京都府・田川郡の共同事業として工事が開始され、同二十三年(一八九〇)十月、六年八ヶ月の工期を経て完成しました。昭和三十九年(一九六四)に新仲哀隧道が完成した後はほとんど使用されなくなりましたが、現在は国の「登録文化財」となり、貴重な文化財の一つとして保護措置が講じられています。

登録文化財とは、平成八年の文化財保護法の改正によって新設された制度です。それまでの指定制度を補うものとして、建造物を対象に導入された制度で(現在は建造物以外の有形文化財、有形民俗文化財、記念物も対象)、指定制度よりも緩やかな保護措置によって文化財を護ろうとするものです。

七曲峠

江戸時代、京都府と田川郡を結ぶ峠はいくつかありましたが、なかでも「七曲峠」は最も重要で、交通量の多い峠でした。この峠は「香春道」と呼ばれた街道の一部であり、京都側は新町村(現みやこ町勝山)が、田川側は香春町(現田川郡香春町)が宿場町でした。



仲哀隧道(現在は入口にフェンス設置)

元禄七年(一六九四)、福岡藩の儒学者・貝原益軒は豊前・豊後を旅し、「豊国紀行」という紀行文を残しています。五月一日に福岡を出発した益軒は、五月五日(新暦では五月二十八日)に七曲峠を越えましたが、その時

のことを次のように記しています。「鏡山村を過行ば、其東に、七曲とて高き嶽あり、東西上下の坂、凡一里ばかりあり、其山上は田川京都両郡の境なり、山上より東北の方、海陸の詠めいとよし、山の東は京都郡なり」



▲仲哀隧道と周辺の峠(国土地理院1/25000図「行橋」より作成)

また、京都府上穂田村(現行橋市)の漢詩人・村上弘山は、母親の実家が田川郡高野村(現香春町)だったこともあり、たびたび七曲峠を越えています。ある時「夜踰七曲嶺(夜七曲の嶺を踰える)」と題してこのような詩を詠んでいます。

水激石如言 雲忙月似奔  
夜又来攫我 熟視是松根

【意訳】 水は激しく流れ、岩はモノを言いそうだ、雲はせわしく動き、月は走るようにかけてゆく

京都側から仲哀隧道に至るつづら折れの峠道は、道路の両側に植えられた桜が見事で、季節になるとトンネル手前の峠道が花見客で賑わいます。

ところで現在、桜の名所であるこの峠を「七曲峠」と呼ぶことがありますが、実は仲哀隧道に至るこの道をこのように呼ぶのは誤りです。江戸時代、貝原益軒が眺望をたたえ、村上弘山が夜中にビクビクしながら越えた七曲峠は違う

道なのです(地図参照。本来の七曲峠は現在廃道)。仲哀隧道の名称は、土地に残る仲哀天皇の伝説にちなんだもので、トンネルに至る峠道も「仲哀峠」が正しいものです。おそらく、仲哀隧道が出来た当初から、馴染みの薄い仲哀峠の名前と、使い慣れた七曲峠の名が混用されてきたため、その名残りでも呼び方に混乱があるのだと思われます。

仲哀隧道の工事顛末

ところで、明治十年代に京都府と田川郡を結ぶ新道建設の計画がもちあがった当初、その場所は石鍋峠付近とされていました。石鍋峠は七曲峠のさらに北、中世の山城跡がある障子ヶ岳南脇を走る古道です(地図参照)。しかし、現地調査の結果、勾配があまりに急なため計画を変更し、現在の場所に隧道と新道をつくることになったのです。

仲哀隧道建設工事は大変な難工事でした。建設費は当初計画の約二・五倍、二万四〇〇〇円近くのものほり、詳細な犠牲者数は不明ですが、落盤事故により工事関係者の尊い命が失われています。

(川本英紀)

【注意!】 現在、仲哀トンネルは、落石の恐れがあるため、みやこ町側・香春町側いずれも常時通行止めとなっています。見学はフェンスの外側からとなります。